

「自助」「共助」「協働」で災害に強い街づくりをめざそう！ 岸根町町内会自主防災だより（第15号）

2023年（令和5年）11月 自主防災部発行

本格的な冬も間もなくやってきます。寒さも厳しくなると暖房器具などを使用する機会が多くなってきます。日々のニュースでも火災発生の事案が多く見られるようになりました。「わが家の防火対策」は大丈夫でしょうか。**失火による火災では、火気の取り扱い不注意や不始末**となっています。**失火による主な出火原因（※）は、たばこやこんろ、たき火**などが多くを占めています。

（※令和4年版 消防白書より一部抜粋）

今回は、迎える冬に備えて、大切な生命や財産を守るための火災予防対策について学びます。

1 家の周りの整理整頓で放火防止、キッチン周りなどでは、可燃物などを放置しない。また、**こんろの消し忘れ、こんろなどから一時的でも離れる時は、必ずスイッチを切ることを習慣**にしましょう。IHでもスイッチの消し忘れから火災は発生します。

2 自宅備え付けの**消火器を点検、いつでも取り扱える**ようにしておきましょう。

- 家庭用消火器の使用期限は概ね5年とされています。（業務用は10年）
- どこにあるか確認をしましょう。いつでもつかえる場所に置きましょう。
- **消火器の使用方法**

町内会での防災訓練などに積極的に参加して使用方法を身に付けましょう。

- ① 消火器を持参して、火元近くに搬送する。火元に近づきすぎるとやけどをしますので注意をして下さい。（天井に火が延焼していたら避難を優先しましょう。）
- ② 黄色い安全栓を引き抜く。
- ③ ホースをはずして火元に向ける。
- ④ 火元を確認してレバーを強く握り消火する。

（放射時間は約10秒から14秒程、放射距離は、3～8メートル程度です。）



3 住宅用火災警報器は、設置されていますか

① **定期的に作動状態を確認**して、音を聞いてください。

- ・警報器の「ボタンを押す」、または「ひもを引いて」確認をします。正常な場合は、メッセージや警報音がなります。
- ・音が鳴らないときは、電池のセットが確実か確認して下さい。セットが確実で鳴らないときは、「電池切れ」か「本体の故障」です。



② **住宅用火災警報器は、設置してから約10年が交換の目安**です。

古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで火災を感知しなくなることがあるため、とても危険です。10年を目安に交換しましょう。

（一般社団法人日本火災報知器工業会より抜粋）